



基礎分野は、「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎とする。社会情勢への関心を持ち幅広い人間理解と、科学的思考力を含む学生の人間成長をねらいとした科目を設定した。

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる分野である。人体を系統立てて理解し健康・健康障害に関する観察力・判断力を高め、援助の根拠の理解に繋がるようにした。また保健・医療・福祉制度を総合的に学習し、社会資源の活用、セルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や地域における関係機関の調整などを行える内容とした。

専門分野 I と II は基礎分野・専門基礎分野の上に位置づけられる。

専門分野 I の基礎看護学は、総てのベースとなり、看護の基本となる概念、基本的看護術、看護の果たす役割と機能・最近の看護を取り巻く状況等について学ぶ。

専門分野 II は、成長発達段階に応じて小児・成人・老年看護学をおき、対象に応じた看護の方法を学ぶ。更に母性看護学は、女性のライフサイクルの視点から捉え、小児・成人・老年を含む三角形とした。精神看護学は、自己理解・他者理解をしながら人間関係を築き、総てに関わる位置づけとした。

専門分野 I と専門分野 II の臨地実習は、知識・技術・態度の統合の場であり個別性に応じた看護を展開する。

統合分野は、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」からなる。在宅看護論は、各領域で学んだ知識と技術を統合し、対象の生活状況に応じた看護を学ぶことから総ての領域に関わる位置づけとする。また看護の統合と実践は基礎分野・専門基礎分野・専門分野 I ・専門分野 II で学んだものを統合し、臨床実践に近い形で学習するため、看護基礎教育の集大成に位置づけるものとする。